

おめでとうイチロー

校 長 武井 正明

イチローを初めて観たのは2009年3月7日のWBC、対韓国戦。観衆は45640人!!

イチローが東京ドームに姿を現した瞬間、気づいた観客が大量に下りてきて、最後部からシートの青色がドミノのように広がって見えたのを憶えている。

イチローが打席に立ち、バットを持つ右手を投手側に向けて止まると、球場内が一斉のフラッシュで、主審が溜まらずタイム。イチローはそれを楽しんでいるようだった。

その夜、いきなり三塁線に意表を突く絶妙なドラッグバントを決め、ライトからはサードに矢のような「レーザービーム」で走者を刺した。まさに千両役者だった。

松坂大輔が投げ、城島健司が打ち、原辰徳が監督だった。14対2の大勝。しかし、その後イチローは極度の不振に喘ぐことになる。そして再び韓国と闘った伝説の決勝戦で、劇的な決勝打を放ち、日本は連覇を果たすのだ。

それから10年後の2019年3月21日、東京ドームで行われたMLB開幕戦でイチローは引退した。この日も私はドームにいた。試合前の練習から、ずっとイチローの一挙手一投足に、超満員46451人の観衆の眼は釘付けだった。

そしてまた彼が打席に立つと、すさまじいフラッシュ。この人はずっとこうやって、常に注目される世界の第一線で活躍してきた…。

これまで観た試合のなかで、試合内容を全く憶えていないのは、清原和博が引退を決めて代打出場した2008年8月3日大阪ドームでの1打席と、イチローの引退試合しかない。

イチローは試合後の会見で「今日のあの球場での出来事、あんなものを見せられたら、後悔など、あろうはずがありません」と晴れやかな笑顔で語った。この人は、本当に自分が信じた道を愚直なまでに、一途に歩いてきた努力の人なのだな、と感服した。

直近でイチローを観たのは昨年11月23日、プレミア12の準決勝、対台湾戦の試合前。これも東京ドームだった。ビシッと濃紺のスーツに身を包んだイチローがいた。髪は真っ白になったが、現役時代と全く変わらないシルエット。この人はとにかく体を鍛えていないと気が済まないのだろう。そして、根っからの野球小僧なのだ。

そして遂に先日、日本人選手として初の米野球殿堂入りを果たした。表彰式典では、総て流暢な英語でスピーチをし、受賞の喜びを表現した。唯一日本語で、メジャーへの扉をこじ開けた、野茂英雄に対しての感謝の言葉にもシビれた。

私の本心は…、イチローの侍ジャパンの監督姿が、ぜひとも観たい!!

でも、イチローはカズと同様、監督業には全く興味ないんだろうなあ…。

でも観たいなあ…「イチロー監督」オレはまだ諦めていない。